

2月3日は節分です。2月4日は立春で暦の上では春を迎えますが、寒さ厳しい日が続きますね。先月は、インフルエンザ(A型)が終息し、溶連菌感染症が目立ちました。寒さや乾燥で感染症が流行するこの時期、胃腸炎も注意したい中、早いと花粉症症状も出始めます。手洗い、うがいで感染症予防しながら、個々のお子さまの体調にあった健康管理で、今月も元気に過ごしましょうね。

1歳でも花粉症になる？

花粉症になるのは小学生ころからと言われていましたが、最近は少ないながらも1歳過ぎでかかる子もいるそうです。小さい子はつらさを言葉で伝えることができないので、気になる症状が見られたら、一度病院の受診をお勧めします。

気になる症状

水っぽい鼻水が続く

外に出たときに目をかゆがる

目がくじくじゅしている

なってしまったら

- 花粉の飛ぶ時期は、布団を外に干さない
- 部屋に入るときは、服に付いた花粉をはらう
- 外から帰ったら、ぬれたタオルで顔をふく

溶連菌感染症

溶連菌(ようれんきん)感染症とは、溶血性連鎖球菌という細菌による感染症で、喉の痛みを伴う咽頭炎の2割程度がこの菌が原因と言われています。5~10歳くらいまでの子どもがかかりやすく、発熱で気付かれることが多く、咳やくしゃみなどでうつります。

2~5日の潜伏期間の後、喉の痛みや、扁桃腺が腫れる症状から始まり、頭痛、体のだるさなど、かぜの症状と同時に38~39℃の高熱が出ます。発熱から2~3日経つと、首や胸、手首、足首に粟粒状の発疹が現れて強いかゆみを伴い、やがて全身に広がります。同時に、舌にイチゴ状の小さくて赤いブツブツとした発疹が現れます。

溶連菌感染症と診断されたら、抗生物質を10日から2週間程服用します。早い時期から服用する程、治療効果があると言われています。発症から5日程経つと、熱も下がり、発疹や喉の痛みも治まります。予防には、手洗い・うがいのが基本です。

熱がある時は、水分補給を十分に行いましょう。また、喉の痛みがあるため、熱い物や刺激物、柑橘系の果物は避けましょう。回復後、まれに急性腎炎やリウマチ熱にかかることがあります。症状が消えても、医師の指示があるまでは、薬の服用をやめないようにしましょう。

花粉症 できるだけ花粉を避ける 予防のポイント

室内に入るときは頭や洋服についた花粉を払い落とす



外出時はマスクやメガネを身につける



こまめに洗いながす手洗い・うがい 洗顔

洗濯物は室内に干す

豆での事故に気をつけて！

節分といえば豆まきですが、小さい子どもはかみ砕いたり飲み込んだりする力が不十分ため、豆が気道に入りやすく、窒息したり、肺炎を起こしたりすることもあります。

消費者庁は

- 3歳頃までは豆やナッツ類を食べさせない
- 3歳以上の幼児は食べることに集中させ、よくかみ砕くように声をかけ見守るようにと呼び掛けています。

豆まきをした後は、子どもが拾って口に入れてしまうことのないよう後片付けをしっかり行いましょう。また、豆まき子袋入りの豆を利用する家庭も増えているそうです。



[今月の保健行事]

0歳児健診
2/7、21、28(水)

[今月の感染症報告]

- *インフルエンザ(A型)…2歳児2名
4歳児1名
- *下痢、嘔吐…0歳児2名、1歳児3名、
2歳児1名、3歳児1名、4歳児1名5歳児1名
- *感染性胃腸炎…1歳児1名、2歳児1名
*溶連菌…3歳児1名、4歳児1名
*頭しらみ…5歳児2名